

タイトル:平成 28(2016)年度 研究セミナー(第 17 回)

日程:平成 28 年 12 月 16 日(金)～18 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「オスマン帝国第 2 次立憲政期における実業教育思想

— 『教師』誌と『教育雑誌』の論説の分析を中心に—

勝本 英明 (九州大学大学院)

第 17 回の本研究セミナーに参加させていただいた。正直に言うと、応募前、私はまだ、博士後期課程 1 年目で、博士論文を語るには未熟なのではないかと、参加することにためらいや不安があった。しかし、「胸を借りるつもりで！」という所属大学の指導教官の言葉に心が決まり応募させていただいたのだった。今になって冷静に考えてみれば、博士論文に向けて、今、自分がまとめられた内容や構想を、アジア・アフリカ言語文化研究所の多様な専門家の先生方に聞いていただき、アドバイスをいただける機会を得られるとすれば、それは大いに有益なことだったのである。私が心に抱いていた心配はまったくの杞憂だった。発表する機会を与えていただき、様々なご助言をいただけたことは、これから博論を進めていく上での研究の方向性を、よりクリアに見いだす契機となり、博論へのモチベーションをも一層高める機会となった。

私は 20 世紀初頭のオスマン帝国第 2 次立憲政期の教育指導者たちの思想に関心を持っている。西洋をモデルに教育制度や教育内容を作り上げていった当時の教育指導者たちがどのような教育を目指していたのかを、当時刊行されていた教育雑誌の内容から分析しようと研究に取り組んでいる。今回は第 2 次立憲政期の代表的教育雑誌とも言える『教育雑誌 *Tedrisat Mecmuası*』と『教師 *Muallim*』誌に掲載された実業教育にかかわる記事内容の分析について、発表させていただいた。

発表 1 時間、質疑応答 1 時間という時間を割いていただき、先生方や受講生の方々に発表を聞いていただき、多く有意義なご指摘をいただいた。もし、このセミナーに参加せずにいたとしたら、この問題点に気づくのはいつになったのだろうと思う点も多くあり、発表の機会を与えていただいたことに心から感謝している。また、所属大学で指摘されたことと同じことを指摘されることもあり、あらためて修正しなければならないという問題意識を強くすることもあった。さらに、オスマン朝の専門家の先生には翻訳について、事前に原典に当たった上で修正、アドバイスしていただくということもあった。先生方のセミナーへの熱のこもったご指導に胸を打たれ、自らの博論への情熱も強くなったように思う。博論作成について、先生が自らの経験を語ってくださるコーナーでは、質問に真摯に答えてくださったことも大いに参考になった。また、博論を完成させつつある受講生の方々の発表を聞くことができ、博論に求められる質や研究に対する姿勢に直接、触れることができたことも、大きな収穫だった。懇親会においても、先生方や受講生の方々は研究についてのお話に快く応じてくださり、セミナー期間中は本当に充実した時間を過ごすことができた。

本セミナー参加を通して、より良い研究をするためには、自らの研究を多くの人に見てもらいご意見をいただくことが、いかに大切なことかを実感することができた。得られた成果を十分に生かして、今後、博

論に取り組んでいきたいと思う。多くの方々のご厚情に触れて、いつか社会にフィードバックできるような研究ができるよう努力しなければならないとの思いを強くした研究セミナーだった。